

2003年12月1日

東京三菱銀行  
調査室

調査月報・解説/2003年12月：本格的な普及期を迎えるハイブリッド自動車

要約文

- (1)ハイブリッド自動車を巡る競争が、わが国メーカーによる独占から海外メーカーも含めた争いへと変化している。ハイブリッド自動車とは、エンジンと電気モーターの2つの動力源を走行条件に応じて使い分ける自動車で、これまで日本メーカーが市場を独占してきた。ところが、従来、出遅れていた海外メーカーが、ここへきて取り組みを一斉に強化している。
- (2)これは、海外メーカーにとって、環境規制の達成期限が迫るなか、次世代エコカーの本命と目される燃料電池車の普及が遅れる懸念が強まっているうえ、従来の取り組みの延長線上では、規制クリアが難しいとの見方が強まっていることから、「低燃費」と「排出ガスのクリーン化」で抜きん出るハイブリッド自動車の投入が不可欠となってきたためである。
- (3)こうした状況を受けて、巷間、ハイブリッド自動車市場が急拡大するとの見方が強まっているが、そのためには、割高感を払拭すべくコスト削減が不可欠となる。ただ、単独ではこうした課題をクリアできないメーカーが現れる可能性が高いなか、今後は、先行する日系メーカーを軸とした提携関係の構築が活発化してくる公算が大きい。